



七月

旬

はも・すずき
 太刀魚
 きゅうり・なす
 おくら
 みょうが
 枝豆
 桃・まくわうり



忠海祇園の縁起物「ざる」

行事

七日【節句】

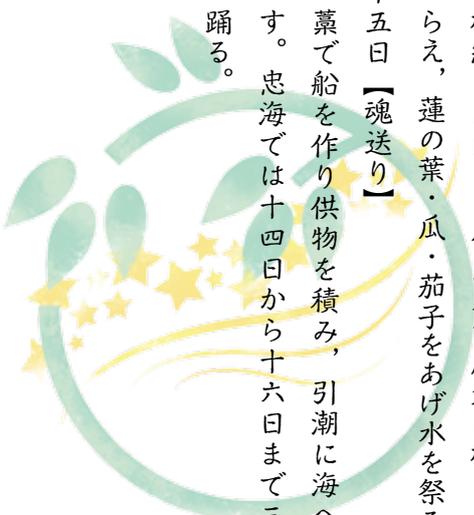
前日、子供たちが七夕の詩歌を五色の短冊に書き笹の葉につけ、瓜・茄子等を二星へたむけていたのを夜潮に海へ流す。

十三〜十五日【盂蘭盆】

魂棚を作り、茅をこもにあみ、蓮の葉を敷き、餅団子・赤飯・素麺・あらめ等を土器に盛り、枯芋の茎を箸にして供える。棚経をあげる。竹か木で屋外に棚をこしらえ、蓮の葉・瓜・茄子をあげ水を祭る。

十五日【魂送り】

藁で船を作り供物を積み、引潮に海へ流す。忠海では十四日から十六日まで三夜踊る。



忠海祇園祭の休憩食

祇園さんおにぎり



材料（6人分）

米	3合
いりこ（可食分）	20g
人参	60g
ごぼう	60g
あげ	18g
みりん	大さじ1
酒	大さじ2
薄口しょうゆ	大さじ1
しょうゆ	小さじ1/2

つくりかた

- ① 米を研ぎ、3合の水加減にしておく。
- ② いりこは頭とわたをとっておく。人参、ごぼう、あげを刻んで下ごしらえする。
- ③ ①にみりん、酒、薄口しょうゆ、しょうゆをいれる。
- ④ ②の具材を③に加えて炊飯。

●神輿を担ぐ人が祇園祭ではいけないこととは？

きゅうりの切り口が、祇園さん（八坂神社）の神紋に似ているため、お祭りの1週間前からきゅうりは食べないそうです。



暑い夏を乗り切る

しそジュース

夏祭りの季節、お神輿を担いで疲労困憊。そんな時にリフレッシュできるさっぱりしそジュースをおすすめします。

材料

赤じその葉	300g
水	2ℓ（計量カップ10杯）
クエン酸	13g（約大さじ1）
*酸味を増やすには、クエン酸を増やすとよい	
砂糖	500g

つくりかた

- ① 赤じその葉は、洗って水気をきる。
- ② 鍋に分量の水を入れて、沸騰させ、①の赤じその葉を入れ、再度煮る。
- ③ 赤じその葉を取り出し、クエン酸を加える。砂糖も入れて弱火にして煮とかす。
- ④ さめたら容器に入れて冷蔵庫で保存する。自分の好みに合わせた濃さに薄めて飲んでください。※少し青じそを加えると、しその香りが出ます。

竹原の夏祭今昔

「忠海祇園祭とみこし行事」 忠海開発八幡神社

(忠海中町) 7月中旬



▲忠海祇園祭

忠海祇園祭は、忠海開発八幡神社の境内にある八坂神社の祭りで、航海安全、商売繁盛、無病息災を祈願して行われ、江戸時代後期から続いていると言われる

伝統あるお祭りです。

神輿のまわし方が特徴的なことから、広島県無形民俗文化財に指定されています。

重さ600kgもある神輿を、担ぎ手が左右に傾けたり、空中高く突き上げたり、その荒々しい勇壮なまわし方「祇園まわし」が感動的です。

祭当日は、夜明け前から夜更けまで、忠海のほぼ全域を練り歩きます。

祭りは「輿守(こっ)さん」と呼ばれるその年20歳を迎えた男性が、陰で支える同じく20歳の女性の「輿娘(こしむすめ)」とともに、祭

りを盛り上げます。

また「輿守さん」の柔道着姿には、飾りの「さる」がたくさん取り付けられ、見物の人々がそれを手に入れると、1年間無病息災を授かると信じられています。

(竹原市観光協会ホームページより一部引用)



▲勇壮な祇園まわし



上：輿守さんの服には縁起物の「さる」が取り付けられる。
下：見物人に撒かれる「さる」。

昔の「住吉まつり」住吉神社

(本町) 7月下旬



▲現代の住吉まつり (7月下旬)

7月の終わり頃に開催していました。塩を運ぶうわね船が住吉神社に着くと、住吉神社から神輿を乗せて(おかげん船)に子どもも乗せてもらい、權伝馬で引っ張ってもらっていました。家を離れている者も皆帰って来て、祭りを楽しんでいました。

住吉神社の祭神は、海神であり、航海の守護神です。

祭りのときの食事として、なます、きゅうりとたこ、うりとみょうが、しょうが、鯛そうめん、ちらし寿司などを食べていました。鯛は高価なものなので、代わりに焼きざみや焼どうまるを入れたそうです。

住吉神社の力石

住吉神社拝殿の



▲まつりを盛り上げる演し物

背後に丸みのある大きな石が三個置いてあります。

神社の一角に、港で働く人たちの小屋があり、休憩場所になっていました。彼らは、塩のカマス（わらむしろの袋）を肩に担いで、小舟に多くの数を積み込む仕事をしていました。重労働のため、力の強い者でないと務まらない仕事です。祭の日には、力石を抱えて力比べしていたと言われています。



▲今も残る力石



▲權伝馬

「夏越祭の大祓い」儀宮八幡神社

（田ノ浦）6月30日



▲茅の輪

「大祓い」は、中世以前には六月と十二月の晦日に、朝廷の親王以下文武百官が朱雀門に集まり、中臣氏が大祓詞を奏上し、大祓の神事を行った宮中行事でした。中世以降、各

神社の年中行事として普及し、「大祓式」として年二度執り行われています。特に6月の大祓式は社殿前の参道に茅を束ねた「茅の輪」を設え、「8」の字に輪を3回くぐり抜け身を清めてお参りし、「無病息災・延命長寿・家内安全・交通安全」を祈願します。

また、人形・車形に身や車についた半年間の罪穢れの悪運を移し、火によりこれを焼祓します。

「祇園祭」儀宮八幡神社 弓崎神社

（田ノ浦）7月13・14日

儀宮八幡神社・境内摂社の中の弓崎神社（祭神は、須佐之男命）の祭で、無病息災を祈願するものです。13日の前夜祭は三原市大草の神楽団が舞っています。